

6月4日の全校朝会

金子みすゞの詩『私と小鳥と鈴と』の中にある「みんな違ってみんないい」。

この言葉を大事に扱い、子供たちがそれぞれの胸にもちながら、周囲の人に対して温かなまなざしを向けられるようにする。本校ではそれを目指して、日々子供たちへの指導を行っています。

人にはそれぞれ「持ち味」があります。自分の持ち味を誇りに思って、他者の持ち味を大切にできるように、子供たちに次のように話しました。

西小の皆さん、おはようございます。

6月の全校朝会に際して、校長先生からは、「人のくせ」についてのお話をします。

皆さんは、「なくて七癖（くせ）」という言葉を知っていますか？

ないと思っても人は癖を7つくらいはもっている、ということで、「くせがない人なんていない。くせがないように見える人でも何かしらくせがある」という意味の言葉です。

身近な人を思い浮かべると、確かに何かしらのくせがありますよね。

皆さんも、身近な人、家族のことを思い浮かべてみてください。

例えば、くしゃみを「はっくしょん」と大きな声でするとかありませんか。

また時々、皆さん自身も、人から「～っていう口ぐせがあるね。」とか、「鼻の穴を膨らましてしゃべるくせがあるね。」などと言われたりもするかもしれません。いろいろ思い当たりますね。

そのように人には、多かれ少なかれくせがあります。

ところがこのくせは、人から好まれるものとそうでないものがあるようです。

ですが、私はこの「くせ」というのを大事な「持ち味」と考えています。

好まれることも好まれないことも、全部「持ち味」。

「持ち味」を分かりやすく言うと、「自分らしさ」「その人らしさ」です。

この地球には80億人という想像もつかないほどの多くの人たちが生活していますが、一人として同じ人はいません。

顔も体も声も、肌や瞳や髪の毛の色、そのほかの外見的な特徴も、好きな遊びも食べ物もアイドルもゲームも漫画も、80億人がそれぞれみんな違います。

まさに「みんな違って、みんないい」のです。

ですから、人と比べて「違っていいやだな」とか、「人からどう思われちゃうかな」となどと気にしてしまうのは、とても残念な、もったいないことです。

私は常々、皆さんそれぞれが、自信をもって、それぞれの素敵な持ち味を出して生活を送って行って欲しいなと思っています。

それとともに、皆さんが周りの友達の持ち味を素敵だなと心から思える広くて優しい心をもつ人になって行ってほしいなと思っています。